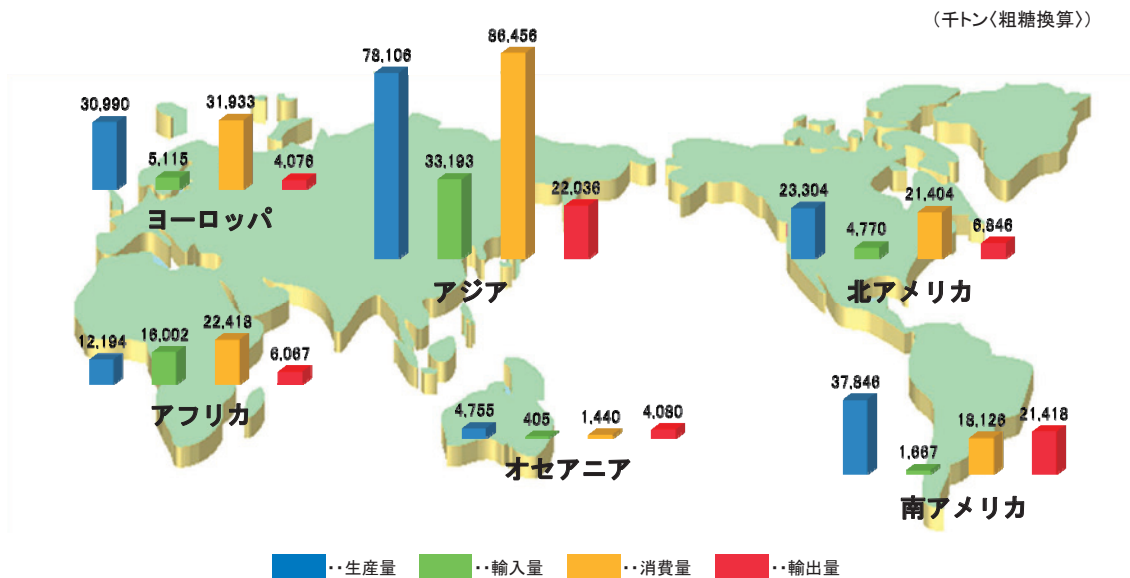


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給（2019年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、前回の予測とほぼ変わらず、0.8%下方修正の1億8719万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比4.0%減）とやや減少すると見込まれている（表1）。アフリカは前年度を上回る一方、ヨーロッパは天候不順によりてん菜の生産量が減少する見込みであることに加え、南アメリカはブラジルがサトウキビのエタノール生産への仕向け割合を増やしていることを受け、全体として生産が減少すると見込まれている。

同年度の世界の砂糖消費量も前回の予測とほぼ変わらず、0.8%下方修正の1億8178万トン（同0.8%増）と横ばいと見込まれている。世界の砂糖需要をけん引するアジアは昨今の景気動向を反映し、引き続き消費量が堅調に増加すると見込まれるほか、人口増を背景にアフリカも消費量の増加が見込まれている。一方、ヨーロッパは、健康志向の高まりなどから消費量が減少に転じる見込みで、アジアやアフリカでの増加を相殺するとみられる。

全体を見ると、2018/19年度は生産量が消費量を大きく上回り、期末在庫率は40%台半ばに達すると見込まれることから、砂糖の需給は供給過剰となる見通しである。なお、地域別の砂糖需給は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,048	160,315	56,023	164,782	56,244	50,359	30.6
2013/14	63,358	184,058	58,323	175,156	61,044	69,539	39.7
2014/15	69,539	183,717	59,707	176,511	62,081	74,371	42.1
2015/16	74,371	175,955	67,776	179,662	69,077	69,364	38.6
2016/17	69,364	180,387	70,759	181,580	71,288	67,642	37.3
2017/18	67,642	195,054	66,554	180,304	69,383	79,562	44.1
2018/19 (2019年3月予測)	79,748	188,706	62,662	183,289	64,945	82,882	45.2
2018/19 (2019年6月予測)	79,562	187,194	61,153	181,777	64,524	81,608	44.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

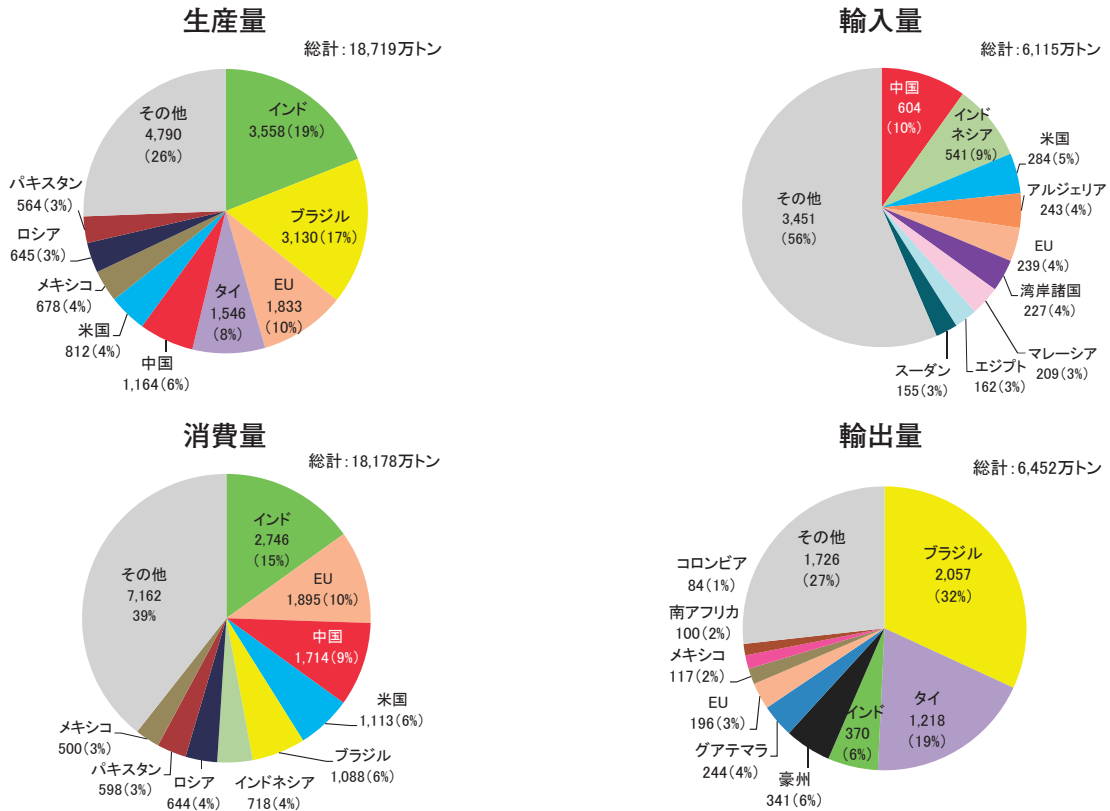
注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2019年6月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2018/19年度）



【生産量】

2018/19年度の砂糖生産量を国別に見ると、インドは、干ばつなどの気象災害や害虫被害が発生したものの、他の作物より収益性の高いサトウキビへの生産意欲の高まりを背景に収穫面積の増加が単収の落ち込みをカバーするとみられることから、3558万トン（前年度比2.5%増）とわずかに増加すると見込まれている（図2）。過去最大を記録した前年度を超える生産量が予想されるため、結果として、ブラジルを抜き世界第1位の砂糖生産国になるとみられる。

ブラジルは、前年6月から8月にかけて主産地の中南部を中心に乾燥した天候が続いたことでサトウキビの生育にマイナスの影響が出ているほか、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が7割に達する勢いで推移していることなどから、3130万トン（同24.6%減）と大幅な減少が見込まれている。

EUは、春先の天候不順でてん菜の播種^{はしゅ}が遅れたことに加え、6月以降に記録的な猛暑に見舞われ、収量が大幅に低下するとみられることから、1833万トン（同15.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれている。

【輸入量】

中国は、砂糖への追加関税措置を継続することを前提とすれば、604万トン（前年度比0.4%増）と横ばいで推移すると見込まれている。

他方、インドネシアは、昨今の景気動向や人口が右肩上がり推移していることなどから、541万トン（同14.1%増）とかなり大きく増加すると見込まれている。

【消費量】

昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、インドネシアは718万トン（前年度比2.3%増）、インドは2746万トン（同2.0%増）、中国は1714万トン（同1.2%増）と増加が見込まれている。

他方、EUは健康志向の高まりなどを背景に、1895万トン（同1.7%減）とわずかに減少すると見込まれている。

【輸出量】

ブラジルでは、砂糖の国際価格の低迷を背景に、砂糖の輸出に消極的でバイオエタノール生産を加速させる動きが見られることから、2057万トン（前年度比33.7%減）と大幅な輸出量の減少が見込まれている。

EUは、てん菜の減産により砂糖生産量が消費量を下回り、輸出余力が低下するとみられることから、前年度の約半分となる196万トン（同48.6%減）と大幅な減少が見込まれている。

他方、タイは砂糖の国内消費の落ち込みをカバーするため、輸出意欲が高まるとみられることから、1218万トン（同20.9%増）と大幅に増加すると見込まれている。

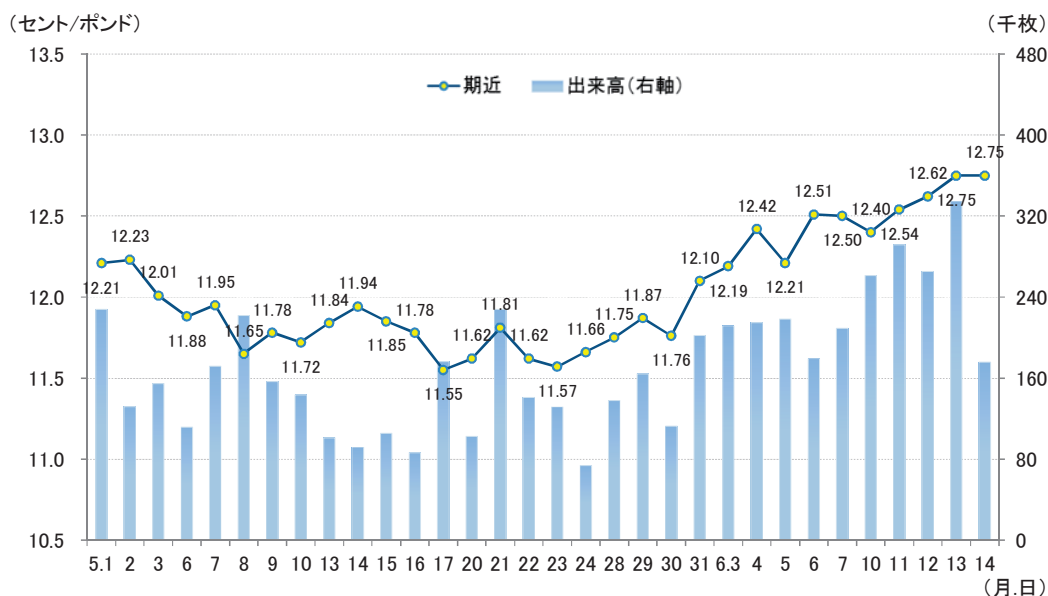
インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、補助金政策や最低輸出義務の設定など輸出に対する政府介入の度合いが強まっているため、370万トン（同56.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (5/1 ~ 6/14)

～ 2019年4月以来の水準まで値を戻す～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年5月の推移を見ると（7月限）、1日に1ポンド当たり12.21セント^{がつきり}（注1）の値を付け、3日まで同12セント台で推移したものの、週明けの6日は原油価格の下落に引きずられて同11.88セントまで値を下げた^{（注2）}。8日は前日にブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が砂糖増産の見通しを示したことを受け、同11.65セントまで値を下げた。その後は、目立った材料がない中、緩やかな回復基調を続け、14日は同11.94セントの値を付けた。17日は、リアル安に伴う輸出増への懸念から同11.55セントまで下落し、今年の最安値を更新した。20日に小幅に反発し、21日は続伸して同11.81セントまで値を戻したが、23日はブラジルの砂糖生産が想定を上回る数量で推移していることが相場の押し下げ要因となり、同11.57セントまで下落した。その後は、売られ過ぎ

の反動から買い戻され、29日は同11.87セントまで値を上げた。31日は、ブラジルでサトウキビをエタノール生産へ仕向ける動きが広がっていることを受け、同12.10セントの値を付け、約30日ぶりに12セント台を回復した。

6月に入ると、4日はレアルの上昇が相場を下支えし、同12.42セントの値を付け、4月以来の水準まで回復した。5日は原油価格の下落から同12.21セントまで値を下げるも、すぐに値を戻し6日は同12.51セントまで反発した。その後は、インドの干ばつ被害が深刻なレベルとの報道や、トウモロコシ価格の上昇を背景に米国のバイオエタノール生産が抑制され、ブラジル産エタノールの需要が増えるとの観測などが相場を押し上げ、13日は同12.75セントまで値を上げた（図3）。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が低下する。バイオエタノールへの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバな

ど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が増える方向に作用する。その結果、需給緩和の懸念が強まり、商品相場は下落する傾向にある。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年6月時点予測）

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）

生産量：6億2400万トン（同0.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3092万トン（同1.2%減）

輸出量：2045万トン（同0.6%減）

2019/20年度、輸出量はわずかに減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際相場の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少する見込みであるものの、サトウキビ生産量は生育状況がおおむね良好であることから6億2400万トン（同0.5%増）と横ばいで推移すると見込まれている（表2）。

砂糖の国際価格の低迷が長期化していることから、サトウキビのエタノール生産への仕向け割合が上昇するとの見通しの下、砂糖生産量は3092万トン（同1.2%減）、輸出量は2045万トン（同0.6%減）と、ともにわずかに減少すると見込まれている。

メルコスールとEUのFTA交渉、最終局面か

ブラジルのジャイル・ボルソナーロ大統領は6月6日、南米南部共同市場（メルコスール）とEUとの間で交渉が続く自由貿易協定（FTA）について、「間もなく合意に達するだろう」との見通しを示した。

他方、現地報道によると、5月13日から17日にブエノスアイレス（アルゼンチン）で行われたメルコスールとEUによる今年2回目のFTA交渉では、最大の焦点である砂糖などの農産物の市場開放をめぐる、EUが消極的な姿勢を見せていることから合意に至らず、議論は次回以降の会合に持ち越された。このため、現状では交渉が円滑に進むかどうか予断を許さない状況にあるとみられる。

中国の砂糖に対する追加関税、ブラジル政府はパネルの設置を求めない方針

中国の砂糖に対する追加関税措置^(注)をめぐる、ブラジル政府は5月21日、世界貿易機関（WTO）協定に基づく紛争処理小委員会（パネル）の設置を求めない方向で調整を進めていることを明らかにした。同政府は、「ブラジルと中国の双方が満足いく結果が得られた」と述べるにとどめ、詳細は明らかにしなかった。

(注) 中国の砂糖に対する追加関税措置は、194万トンの関税割当数量を超えて輸入される砂糖に適用される

もので、2017年8月から実施されている。適用税率は1年目が95%とし、その後、毎年5%ずつ引き下げられる。ブラジルは2018年10月、中国によるこのような砂糖に対する追加関税措置を不服としてWTOへ2国間協議を要請していた。

ブラジル農務相、GMサトウキビ由来の砂糖の対中輸出に意欲

ブラジルのテレザ・クリスチーナ農務相は5月16日、中国政府に遺伝子組み換え（GM）サトウキビ由来の砂糖の輸入を承認するよう要請したと発表した。同相は、「砂糖は、サトウキビに含まれるスクロース

という糖の結晶であるため、砂糖の成分から組み換えられたDNAやタンパク質が検出されることはない。このことは、科学的にも立証されている」と述べ、「こうした事実を中国の政府関係者に丁寧に説明し、早期に承認を取り付けたい」と輸出実現に意欲を示した。

ブラジル政府は2017年6月にGMサトウキビの商業栽培を世界で初めて承認し、そのサトウキビから作られた砂糖は米国食品医薬品局（FDA）でも安全性が確認されている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

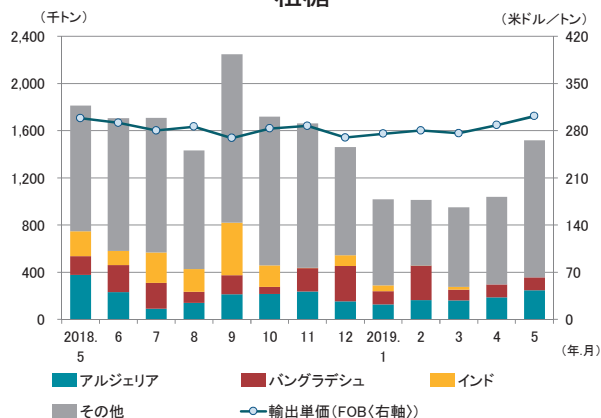
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,473	8,473	▲ 2.0
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,772	624,000	624,000	0.5
砂糖	生産量	41,670	41,490	31,300	32,550	▲ 1.2
	輸入量	4	2	3	42	0.0
	消費量	11,275	10,936	10,882	10,882	▲ 3.8
	輸出量	30,117	31,026	20,565	22,340	▲ 0.6
	期末在庫量	1,022	552	408	521	0.7
	期末在庫率	2.5	1.3	1.3	1.6	1.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

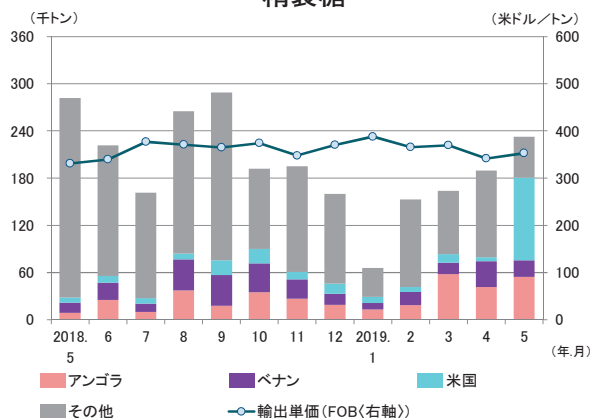
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：503万ha（前年度比4.2%増）
生産量：4億153万トン（同1.9%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3558万トン（同2.5%増）
輸出量：370万トン（同56.6%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、サトウキビの買い取り価格が引き上げられたことに伴う生産意欲の高まりにより503万ヘクタール（前年度比4.2%増）とやや増加すると見込まれている（表3）。一方、サトウキビ生産量は主要生産地における干ばつや害虫被害の影響でサトウキビの生育が停滞しているため、4億153万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれている。

砂糖生産量は3558万トン（同2.5%増）とわずかに増加し、輸出量は政府が製糖業者に対し輸送費などへの助成措置と引き換えに500万トンの最低輸出義務を課していることから、370万トン（同56.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

マハラシュトラ州の砂糖生産量、大幅に減少する見込み

インド政府は6月10日、前年6月から9月にかけて深刻な干ばつに見舞われたマハラシュトラ州では、2019/20年度におけるサトウキビ収穫面積が前年度比で約3割減少するとの見通しを明らかにした。また、同政府は「同州における干ばつは、飼料作物生産にも大きな被害を与えており、飼料の代用としてサトウキビを給与する生産者がいるほど深刻な飼料不足を引き起こしている」と述べ、これらの影響を踏まえ同州の砂糖生産量は同39.2%減の650万トンになるとの試算を示した。そして、同州は同国第2位の砂糖生産量を誇ることから、同州の砂糖生産が減速すれば、インド全体の砂糖生産量も減少するだろうとした。

現地報道によると、業界関係者からは、サトウキビの増産で砂糖在庫が記録的な水準に積み上がっていた状況が改善するきっかけになるとの期待感が出ているという。

表3 インドの砂糖需給の推移

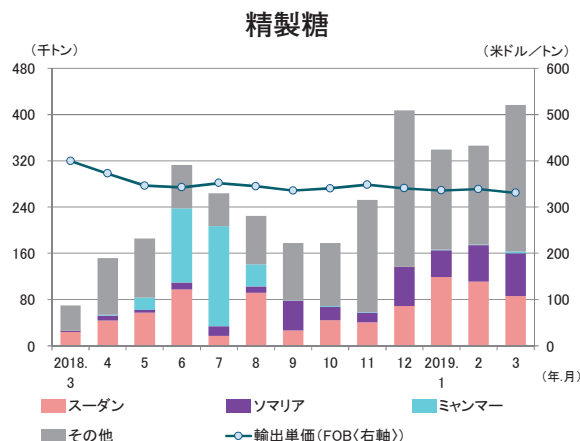
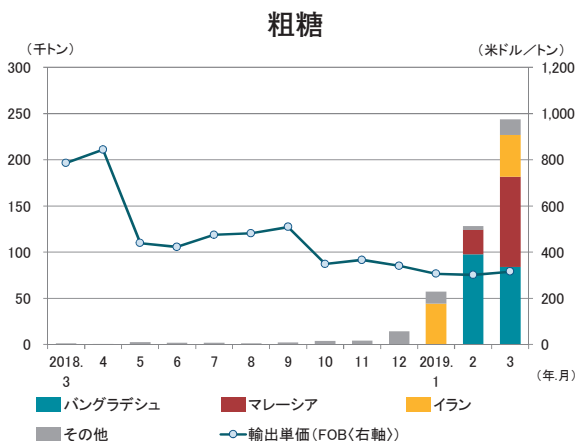
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (5月予測)	2018/19 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,806	4,327	4,830	5,033	5,033	4.2	
サトウキビ生産量	356,871	323,556	409,164	401,526	401,526	▲ 1.9	
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	35,475	35,583	2.5
	輸入量	2,146	2,536	2,306	350	350	▲ 84.8
	消費量	26,784	26,568	26,929	27,434	27,460	2.0
	輸出量	3,955	2,233	2,361	3,698	3,698	56.6
	期末在庫量	8,370	3,952	11,688	16,380	16,463	40.8
	期末在庫率	27.2	13.7	39.9	52.6	52.8	12.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）

生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）

生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1164万トン（同4.4%増）

輸入量：604万トン（同0.4%増）

2018/19年度、輸入量は横ばいで推移する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更^{（注）}したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の増産が期待できるものの、天候不順などの影響で平均糖度が平年を下回る

とみられることから、1164万トン（同4.4%増）とやや増加にとどまると見込まれている。輸入量は、このところの伸びが鈍化し始めており、加えて米中貿易摩擦により中国経済の減速懸念が強まっていることから、604万トン（同0.4%増）と横ばいで推移すると見込まれている。

（注）政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

サトウキビの主産地、深刻な干ばつ被害に見舞われる

中国工業・情報化部は5月27日、広西チワン族自治区に次ぐサトウキビの産地である雲南省において、サトウキビの栽培面積の約35%に当たる9万

9893ヘクタールの^{ほしよ}圃場が干ばつに見舞われ、初期生育が著しく阻害されるなどの被害を受けたと発表した。また、被害面積のうち、約1万5000ヘクタールは被害の程度が壊滅的なレベルに達しており、現在も干ばつが緩和されないまま推移していることから、被害がさらに拡大する可能性があるとした。同部によると、4月以降平均気温が平年より2度程度高く推移し、降水量も平年より4割程度少なかった。

これを受け、雲南省砂糖協会は同日、2019/20年度のサトウキビ生産量は前年度と比べ少なくとも223万トン、砂糖生産量は同28万トン減少するとの見通しを示した。なお、2018/19年度の砂糖生

産量は、207万トン（前年度比4.9%増）と見込まれている。

4月の砂糖輸入量、前年同月を大幅に下回る

中国税関総署が5月23日に公表した2019年4月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は、前年同月と比べ26.4%減の34万トンと大幅に減少した。2018年10月から翌4月までの輸入量は、139万トン（前年同期比1.9%増）とわずかに増加している。ただし、2018/19年度上半期（10月～翌3月）の累計が前年同期比15%増以上で推移していたことから、輸入量の増加率は急激に縮小した。

表4 中国の砂糖需給の推移

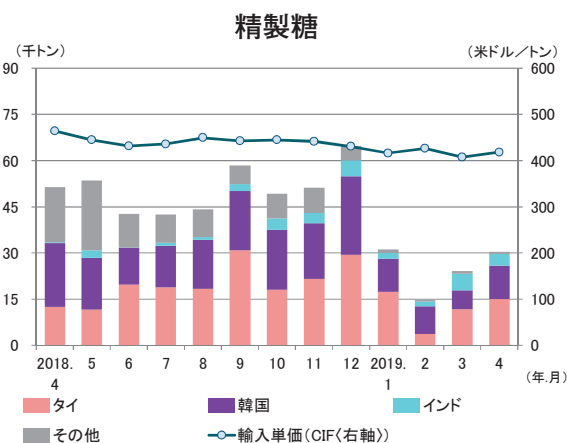
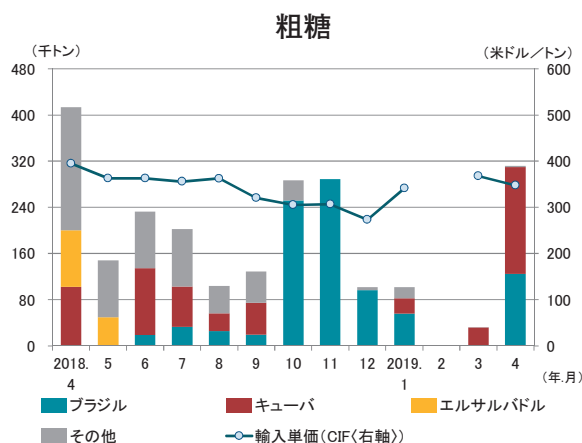
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (5月予測)	2018/19 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲1.0	
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4	
てん菜収穫面積	136	168	186	243	243	30.5	
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7	
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,554	11,640	4.4
	輸入量	7,910	5,715	6,015	5,356	6,036	0.4
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,142	17,142	1.2
	輸出量	181	146	195	174	174	▲10.7
	期末在庫量	11,926	10,689	10,724	10,317	11,084	3.4
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	59.6	64.0	1.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3位を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

E U

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：171万ha（前年度比1.1%減）
生産量：1億1475万トン（同17.1%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1833万トン（同15.1%減）
輸出量：196万トン（同48.6%減）

2018/19年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール（前年度比1.1%減）とわずかな減少にとどまるものの、てん菜生産量は春先の冷え込みによる植え付けの遅れと、その後の少雨で乾燥した日が続いた影響により、1億1475万トン（同17.1%減）と大幅な減少が見込まれている（表5）。

砂糖生産量はてん菜生産量の減少に加え、てん菜の平均糖度が平年を下回るとみられることから、1833万トン（同15.1%減）とかなり大きく減少し、輸出量は前年度の砂糖の生産割当撤廃に伴う輸出増の反動で、196万トン（同48.6%減）と大幅に減少すると見込まれている。

フランス政府、テンサイ褐斑病の防除剤を販売禁止に

フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）は5月28日、EU加盟国において初めて、テンサイ褐

斑病の防除剤として用いられているエポキシコナゾールを主成分とする農薬の国内での販売を禁止すると発表した。その理由を、「エポキシコナゾールの長期にわたっての使用は、野生生物や人体に危害を及ぼす可能性が高い」と説明した。同庁は、有害性を評価するに当たって、欧州化学物質庁（ECHA）が2018年6月に示した指針に基づき判断したと述べていることから、エポキシコナゾールの使用を規制しようとする動きは今後、他のEU加盟国にも波及する可能性がある。

現地報道によると、エポキシコナゾールを主成分とする農薬は、かつて同国のてん菜作付面積の約7割に相当する圃場で使用されていたとされる。しかし、農薬メーカーは、同剤が販売禁止になることを見越し、2015年以降販売を縮小させており、2019年に入ってから販売を取りやめていた。また、エポキシコナゾールと同等の効果がある薬剤が他にもあることから、今回の政府の決定に生産者や業界団体などからの批判の声はほとんど聞かれない。

表5 EUの砂糖需給の推移

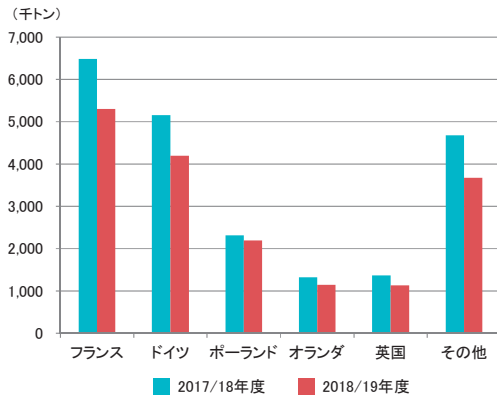
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (5月予測)	2018/19 (6月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,364	1,466	1,732	1,713	1,713	▲ 1.1
てん菜生産量	94,855	107,986	138,437	114,749	114,749	▲ 17.1
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,578	18,327	▲ 15.1
	輸入量	3,651	3,117	1,731	2,391	38.1
	消費量	19,481	19,177	19,273	18,893	▲ 1.7
	輸出量	1,501	1,510	3,809	2,011	▲ 48.6
	期末在庫量	1,913	1,413	1,640	1,509	▲ 11.3
	期末在庫率	9.1	6.8	7.1	7.2	7.0

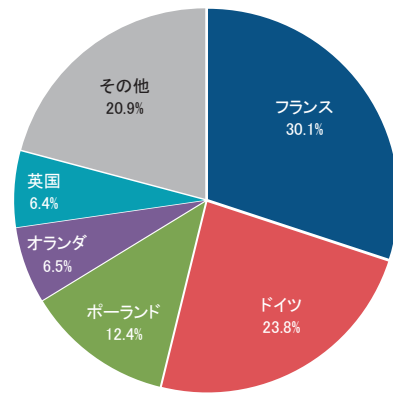
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年4月時点)



資料：欧州委員会
 注1：精製糖換算。
 注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。



資料：欧州委員会
 注：2018/19年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年6月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3か月に1回の報告とし、今回はグアテマラについて報告する。本稿中の為替レートは2019年5月末日TTS相場の値であり、1豪州ドル=78円（77.52円）である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度同）
 生産量：3168万トン（前年度比2.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：446万トン（同5.6%減）
 輸出量：346万トン（同1.5%増）

2019/20年度、砂糖生産量はやや減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移するものの、2018年12月に集中豪雨に見舞われたクイーンズランド州北部を中心に湿害による生育不良の症状が見られることから、サトウ

キビ生産量は3168万トン（前年度比2.5%減）とわずかに減少すると見込まれている（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの収量の減少に伴い446万トン（同5.6%減）とやや減少する一方、輸出量は346万トン（同1.5%増）とわずかに増加すると見込まれている。

クイーンズランド州政府、製糖業者に公的資金投入へ

クイーンズランド州政府は5月30日、経営難を理由にドイツの製糖業者への売却計画を進める豪州の製糖大手マッカイ・シュガー（Mackay Sugar）社に対し、1400万豪ドル（10億9200万円）の補助金を交付すると発表した。同州の副知事は、今回の決定について「マッカイ・シュガー社を救済するための措置でも、売却を後押しするものでもない」と述べ、あくまで設備投資を通じて効率性の高い生産を促すことが目的であることを強調した。

現地報道によると、同社の売却計画は、豪州政府の外国投資審査委員会（FIRB）からの承認をすでに得ており、あとは同社の株主総会での承認を待つ

だけとなっている。しかし、今回の売却には懸念もある。ドイツの製糖業者は、マッカイ・シュガー社が所有する製糖工場の一つ、モスマン工場（Mossman Mill）^{（注）}の権益取得に難色を示しており、買収完了後、同工場を存続させない可能性が高い。地元の生産者団体がモスマン工場の事業買収をマッカイ・シュガー社に打診しているとされるが、条件面で折り合いがつかないかとは不透明な状況である。

（注）モスマン工場は、クイーンズランド州北部にあり、日本向けの粗糖も生産している。もともと地元の生産者団体が経営する工場であったが、2011年にマッカイ・シュガー社に買収された。マッカイ・シュガー社が所有する四つの製糖工場の中で最も処理能力が低いとされる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (5月予測)	2019/20 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	368	376	385	385	385	0.0	
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,492	34,169	31,680	▲ 2.5	
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,893	▲ 5.6	
	輸入量	68	29	29	91	209.8	
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,071	2.0	
	輸出量	4,004	3,601	3,412	3,560	1.5	
	期末在庫量	969	747	1,021	1,399	1,019	▲ 0.2
	期末在庫率	18.8	15.8	22.8	30.2	22.4	0.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.1%増）
生産量：1億3097万トン（同2.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1546万トン（同0.8%減）
輸出量：1218万トン（同20.9%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は179万ヘクタール（前年度比0.1%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれるものの、

サトウキビ生産量は台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受け、1億3097万トン（同2.9%減）とわずかに減少すると見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、気象被害が少なかった東北部のサトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分をカバーするとみられることから、1546万トン（同0.8%減）と横ばいで推移すると見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1218万トン（同20.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

バイオマス発電所の建設計画、地元住民らの反対運動で難航

タイ最大手の製糖業者ミトポン（Mitr Phol）社がタイ東北部に建設を計画する大規模なバイオマス

発電所をめぐる、地元住民らによる反対運動が起きている。5月21日に開催が予定されていた同社主催の計画推進のためのシンポジウムは、会場周辺で計画の白紙撤回を求める地元住民らによる抗議活動が激化したことから、開催延期に追い込まれた。

同社が計画するバイオマス発電所の建設予定地は、トゥン・グラール・ローンハイと呼ばれる世界的にも有名なジャスミン米（香り米）の産地に位置する。専門家などからは、工業用に仕向けられるサトウキビの生産は、生産性を高める目的で大量の化学肥料や農薬が使用される可能性があるとして指摘されており、反対するコメ農家の間では「産地のブランド価値を毀損するのでは」と懸念する声が続出している。

表7 タイの砂糖需給の推移

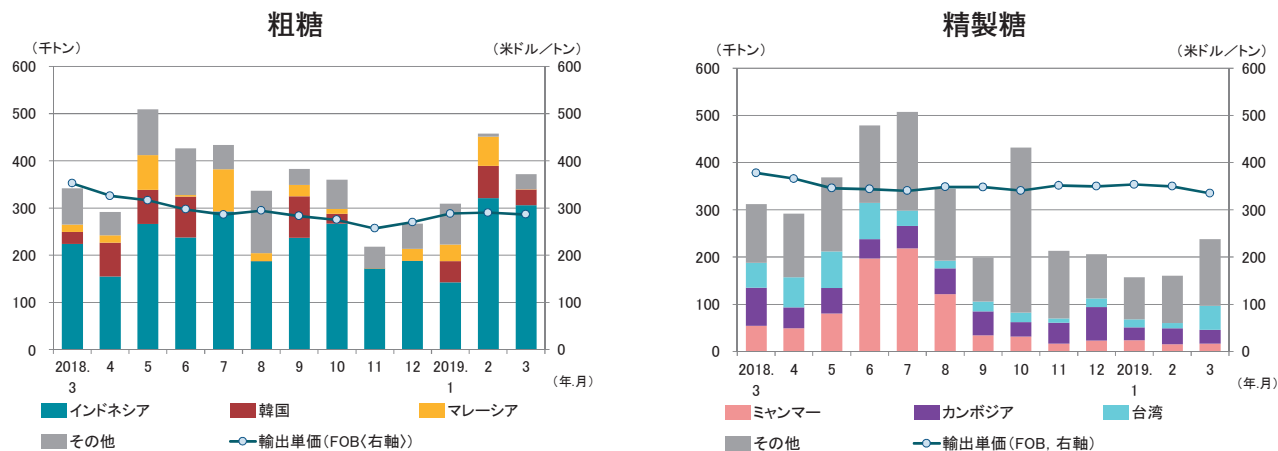
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (5月予測)	2018/19 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,644	1,578	1,790	1,792	1,792	0.1	
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	131,000	130,970	▲ 2.9	
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,586	15,521	▲ 0.8	
	輸入量	1	0	6	3	▲ 48.4	
	消費量	3,272	3,283	3,347	3,132	▲ 6.2	
	輸出量	7,932	7,393	10,077	10,551	20.9	
	期末在庫量	3,970	3,951	6,118	7,965	6,255	2.2
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	58.2	40.8	4.8ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

グアテマラ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度同）

生産量：2559万トン（前年度比1.3%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：319万トン（同7.9%増）

輸出量：244万トン（同33.6%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は26万ヘクタール（前年度同）と横ばいが見込まれている一方、生産量は2559万トン（前年度比1.3%減）とわずかに減少すると見込まれている（表8）。

砂糖生産量は、サトウキビの平均糖度が平年を上回るとみられることから、319万トン（同7.9%増）とかなりの程度増加すると見込まれている。輸出量は、砂糖の国際価格の低迷の影響を受け大きく落ち込んだ前年度の反動から、244万トン（同33.6%増）と大幅に増加すると見込まれている。

インドの砂糖産業への補助金をめぐり、グアテマラもWTOに提訴へ

WTOは3月25日、インドにおける砂糖産業への

補助金をめぐり、グアテマラが提訴する手続きに入ったと発表した。インドに対するWTO協定に基づく協議の申し入れは、ブラジル、豪州に次いで3例目となる。

WTOの発表によると、グアテマラは、インドの砂糖産業への一連の支援策が「農業生産額の10%を超えて国内助成措置を行ってはならない」と明記された農業に関する協定第7条第2項に反していると主張している。また、最低輸出枠の確実な履行と引き換えに製糖業者に支給されている補助金が世界での公正な競争を歪めており、WTOのルールに反するとしている。これに対し、インドは「いずれの措置もWTOの下で特定の開発途上国に認められているもの」と反論している。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	2018/19 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	269	256	264	264	264	0.0	
サトウキビ生産量	27,987	25,835	25,936	25,588	25,588	▲ 1.3	
砂糖	生産量	3,039	2,927	2,960	2,961	3,192	7.9
	輸入量	0	0	0	0	0	-
	消費量	839	898	924	951	949	2.7
	輸出量	2,210	2,164	1,827	2,209	2,441	33.6
	期末在庫量	858	724	933	740	736	▲ 21.1
	期末在庫率	28.2	23.6	33.9	23.4	21.7	12.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。